

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年10月8日(金)

その3

◇ 岡崎市小学校陸上大会 で 見えたもの

9月30日(木)、岡崎市龍北陸上スタジアムで「岡崎市小学校陸上大会」が行われた。



本校の児童は、控えを含めて6名の選手が出場。選手エントリー5名のうち、4名が本大会でベスト記録を更新、さらに2名が表彰を受けるなど、素晴らしい活躍を見せた。

この活躍以上に目を引いたのは、児童のマナーを含めた真摯な態度である。

胸と背に「常磐東」の校名をあしらった伝統のユニフォームが一際輝いて見えたのは、競技以外の陰の部分。児童の美しい姿があったからだ。

もてる力を本番の舞台で発揮する。本校の児童は本番に強い。これは、普段の学校生活・家庭生活・日常生活の中で「正しく鍛えた身と心(校歌2番の一節)」を証明したともいえよう。選手諸君が、忘れてはいけないことがある。自分の身と心を鍛えるのに欠かせなかった家族や仲間、担任、顧問、周りの方の存在を今一度振り返るとともに、様々な場面で支えていただいたことへの感謝である。

大会を無事終え、振り返りの本稿で取り上げたいのは、5年生のK君である。長距離走を得意としているK君は、学校に与えられた「たった一つの選手枠」を、同じく長距離を希望した6年生のH君に譲る。他の種目を選択する方法もあったが、彼がとった道は、H君に何かがあった場合の代役。「控え選手」である。

レースの様子や雰囲気を感じ、来年の大会につなげようと、彼は大会もチームに帯同して選手を応援する。たった一人で応援をするのは、なかなか厳しい。心なしか寂しさも見受けられたが、彼は任された役割を見事にやり切った。拍手。

そしてH君。出場した1000m走は、ベストを30秒以上も上回る驚異的な走りで、入賞の3位まであと一步の4位。確かに、この日のH君の走りはいつもと違った。後半のへばりを気力で振り払う力走だ。この光る走りの陰には、自分にエントリーを譲ってくれたK君の存在があったのは、言うまでもない。

人は、誰かの存在の重要性に気付いた時、奥底に眠る底力が発揮できるのだ。

この出来事で、二人は正しく身と心を鍛え、大きく成長した。そして来年、さらに身と心を鍛えたK君が、大会で力を発揮できることを願って止まない。



6年 R.Hさん



6年 H.Tさん



6年 R.Hさん



5年 K.Nさん

6年 S.Kさん